



「新時代とやまハイスクール構想」実施方針

『こどもまんなか』の視点で考える
学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり

令和8年1月
富山県総合教育会議

「^{ひら}みらい」を拓くみなさんへ

^{とびら} 扉の向こうには、^む どのような「^まみらい」が待っているでしょう

その「^{じしん}みらい」をつくるのは、あなた自身です

^{とびら} さあ、扉を開けて、^あ ^{いっぽ} ^ふ ^だ 一歩を踏み出していきましょう

^{ひとり} 一人ひとりの「^{こた}やりたい」に応えたい

^{ゆめ} ^よ ^そ それぞれの夢に寄り添い、^{あゆ} ^{がっこう} ともに歩む学校へ

^{けんりつこうこう} ^{あら} ^む 県立高校は新たなステージへ向かっていきます

^{しんじだい} 新時代とやまハイスクールで、^{きみ} ^{ものがたり} ^{えが} 君の物語を描こう



はじめに

科学技術やグローバル化の進展、人口減少の進行など社会が大きく変化する中において、県立高校のあり方は、大きな変わり目を迎えている。このため、令和3年度以降、さまざまな方法でお聞きしてきたご意見も踏まえながら、将来の県立高校に必要と考えられる教育内容などについて議論を重ね、令和7年3月に「新時代とやまハイスクール構想」の「基本方針」を取りまとめた。

令和7年度は、「基本方針」を踏まえ、新たに検討組織を立ち上げ、さらに幅広いご意見をお聞きしながら検討を進め、このたび、その結果を「実施方針」として取りまとめた。同時期に国から示された、令和22年（2040年）に向けた「高校教育改革に関するグランドデザイン」は、本県の構想と軌を一にするものであり、構想の推進を強く後押しするものである。

この「実施方針」は、構想の方向性を示す「羅針盤」として位置付けるものであり、今後は、国のグランドデザインも踏まえながら、社会情勢の変化や今後の中学校卒業予定者数の状況などに応じて、必要な場合は見直しを行いつつ、構想を着実に推進する。

誰も経験したことがない人口減少社会において、本県のこれまでの教育実績を活かしつつ、常に「こどもまんなか」の視点から県立高校に何が必要かを考え、高校教育のさらなる充実に努めていくこととする。

目次

I. 県立高校を取り巻く状況	1
II. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿	2
① 基本目標	
② 基本とする考え方	
③ 教育内容	
④ 学校規模別の設置方針	
⑤ 令和20年度における県立高校の学校規模のイメージ	
⑥ 様々なタイプの学校・学科等	
⑦ 新時代HSの類型	
【ご紹介】「新時代とやまハイスクール」の学校像	13
III. 「目指す姿」から考える「各期の姿」	14
① 各期の方向性	
② 各期の姿 (参考) 令和8年度の県立高校(全日制)の設置状況	
IV. 今後の進め方	18
① 項目ごとの流れ	
② 第1期校等の流れ	
「新時代とやまハイスクール構想」実施方針に関する検討経緯	23
Q&A	25

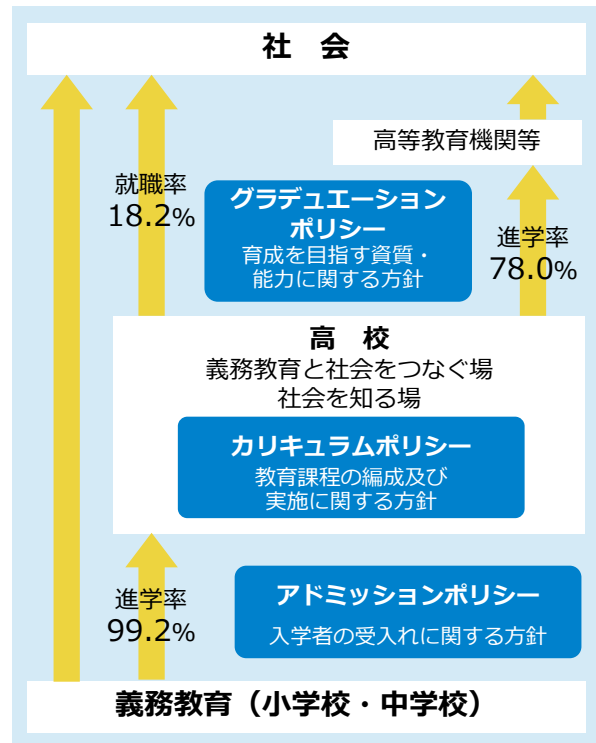
I. 県立高校を取り巻く状況

- これまで富山県では、豊かな自然や教育熱心な県民性、熱意と使命感を持つ教員など、教育を支える恵まれた環境の中、児童・生徒の生きる力を育むため、個性や能力を伸ばす熱心な教育活動が展開され、「教育県」として高く評価されてきた。
- こうした中、近年、科学技術やグローバル化の進展、人口減少の進行など社会は大きく変化してきており、また、生徒の興味・関心や進路希望の多様化、不登校生徒や外国人生徒等の多様な教育ニーズへの対応など、教育を取り巻く環境は今後の予測が困難な「新時代」を迎えたと言える。
- この「新時代」においても、義務教育と社会をつなぎ、社会を知る場である高校で、生徒が明るい未来を描き、夢を叶えることができるよう、県立高校におけるこれまでの教育実績を活かしながら、高校教育のさらなる充実を図っていく必要がある。

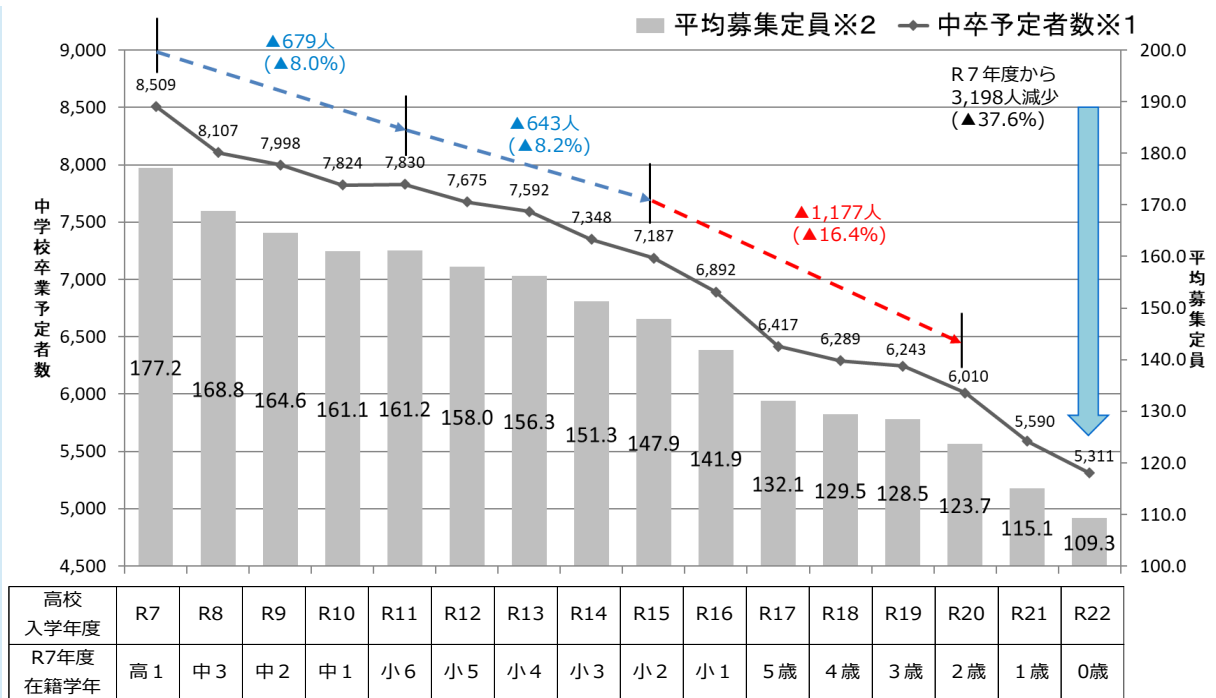
社会の変化
科学技術やグローバル化の進展、
人口減少の進行等

生徒の変化
興味・関心、進路希望の多様化
多様な教育ニーズへの対応
(不登校生徒、外国人生徒、
特別支援教育等)

高校の位置づけ



今後の中学校卒業予定者数の推移



※1 R7～R16は学校基本調査(R7.5.1)の在籍者数、R17～R22は人口移動調査(R7.10.1)に基づく推定値

※2 令和9年度以降の募集定員は中学校卒業予定者数の70%と仮定し、平均募集定員は、全日制34校として算出

※進学率、就職率は令和7年度学校基本調査によるもの

II. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

1 基本目標

- 社会や生徒を取り巻く状況を踏まえ、令和20年度までに実現を目指す県立高校の基本目標を次のとおりとする。
- この基本目標を実現するため、現在の全ての県立高校(全日制)を再構築して新たな学校を設置する「新時代とやまハイスクール構想」(以下「構想」という。)を進める。

県立高校の基本目標

新時代に適応し、 未来を拓く人材の育成

予測困難な時代において、生徒が社会の変化やニーズを的確に読み取り、様々な人々と協働して社会参画できるよう、個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせながら、生徒一人ひとりの生きる力とレジリエンスを育み、「ウェルビーイング」の向上を図る。

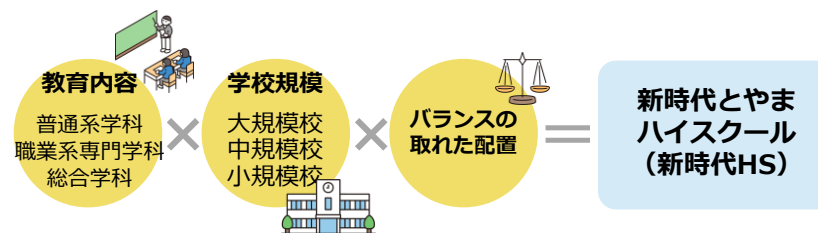
全ての県立高校(全日制)を再構築し
新しい学校を開設する

新時代とやま ハイスクール構想

2 基本とする考え方

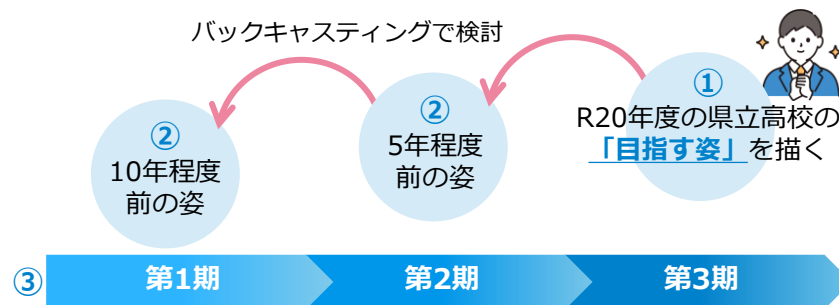
1) 新時代とやまハイスクール(「新時代HS」)の設置

- 新時代HSは、基本目標の実現に必要と考えられる教育内容を組み合わせた大規模・中規模・小規模の学校で構成する。
- 少子化が進む中においても、生徒に多様な選択肢を提供できるよう、それぞれ特色のある新時代HSを県内にバランスよく配置し、全ての生徒にとって、「学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり」を推進する。



2) 構想の進め方

- ① 将来(令和20年度)の県立高校の「目指す姿」(教育内容・学校規模・学校類型など)を描き、
- ② バックキャスティングで「各期の姿」を検討し、
- ③ 3期に分けて「再構築等」の取組みを推進していく。



II. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

3 教育内容

- 新時代HSにおける教育内容は、以下のとおりとし、国の「高校教育改革に関するグランドデザイン」で示された3つの視点

「①不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長」

「②我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成」

「③一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保」

も踏まえ、特色ある取組みを進めていく。

1) 普通系学科

- 普通系学科は、「スタンダード」を全てに共通する教育の基本と位置付け、次の教育内容で構成する。

教育内容	ねらい	特色ある取組み（例）
スタンダード	生徒の主体的な学びを通して、進路意識を醸成するとともに、社会課題への関心を高め、未来を拓く人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数・習熟度別授業を実施し、生徒の理解促進とより発展的な学びを提供 ・卒業に必要な修得単位数を見直し、生徒自身の心理的・時間的な余裕を確保し、生徒の主体的な取組みを推進 ・高等教育機関への進学に重点を置いた科目を開設 ・文理の区分に捉われずに、柔軟に科目選択できる教育課程を編成 (ex. 文系でも数学Ⅲまで選択できるような仕組みを検討) ・探究活動を充実し、キャリア教育を推進
STEAM	学術的な見識と豊かな感性を兼ね備え、これからの社会を創造できる人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動に係る授業の単位数を増やし、活動の基本となる考えるための技法の習得に加え、発展的な学びの時間を確保 ・大学や企業と連携した探究活動を実施する「富山×理数×ものづくりラボ（仮称）」を開設し、テーマに関連する大学研究室の学生や教授による定期的な指導機会を設け、大学での学びを先取り ・英語によるアカデミック講演会（各種研究分野）を開催 ・大学入学者選抜における総合型選抜に対応した教育課程を編成 ・県独自の教科等横断型科目「とやま学（仮称）」を開設
グローバル	ふるさとや日本のことを深く理解した上で、外国の異なる文化や多様な価値観を尊重でき、高いコミュニケーション力を備えた国内外で活躍できる人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を通して、我が国の自然や歴史・文化について学びを深め、郷土への愛着や誇りを醸成 【英語力の向上・国際感覚の醸成】 ・ALT（外国語指導助手）の複数配置 ・短期海外研修の実施 ・海外の連携校とのオンライン交流 ・英語以外の外国語の選択履修（希望者） 【海外進学も含めた進路選択（国際バカロレア認定校等）】 ・外国人教師（講師）の配置 ・海外の学校との英語でのオンライン探究活動発表会の実施 ・英語による数学や理科などの授業の実施 ・交換留学制度の推進（短期留学を授業の一環として実施など）

教育内容		ねらい	特色ある取組み（例）
未来創造	i	運動や健康づくりの実践・理解を通して、将来のスポーツ振興に貢献するアスリートやヘルスケア産業を担う人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い教員や外部指導員による「深い学び」を実践 ・生徒の運営による地域公開イベントを開催（ダンスなど） ・専門科目の知識・技能を活かしたスポーツに関する探究活動や課題解決を推進 ・部活動の時間を十分に確保できるような柔軟な教育課程を編成
	ii	芸術文化の幅広い創作活動を通して、豊かな創造性と表現力を持つ芸術家やクリエイター（音楽・映像・アニメ・デザインなど）人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い教員や外部指導員による「深い学び」を実践 ・生徒の運営による地域公開イベントを開催（演劇・音楽など） ・専門科目の知識・技能を活かした芸術文化に関する探究活動や課題解決を推進 ・部活動の時間を十分に確保できるような柔軟な教育課程を編成
	iii	データの分析・解析や情報技術の活用を通して、課題解決能力と新しい価値観を生み出す力を有するデジタル人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・県内大学等と連携したプログラミングやデータ分析に関する学習を実施 ・データサイエンスやプログラミングの実践的な学習を充実 ・eスポーツを通じたICTリテラシーや問題解決能力を育成
	iv	「商業科」の学びを取り入れ、ビジネスに関する基礎的な知識や技術を身に付け、多角的な視点から新しいビジネスを創造できる人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・情報や会計、ビジネスに関する選択科目を開設 ・専門機関と連携した金融・経済に関する教育プログラムを実施 ・商品開発やアントレプレナーシップの育成など社会と結びついた実践的な学習を充実
	v	「家庭科」の学びを取り入れ、福祉マインドを持ち、よりよい社会づくりのために、主体的に地域の人々の生活を支える人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・食物、被服、保育、福祉に関する基礎的な選択科目を開設 ・保育所、福祉施設等での実習を充実 ・地域の人々との交流や他校の専門学科と連携し、地域課題を解決する取組みを推進
地域共創	ふるさとに誇りと愛着を持ち、様々な関係者と協働しながら、地域づくりを担うことができる人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の企業や自治体の抱える課題の解決を図る探究活動を推進 ・地域の特性と高校生の発想を掛け合わせた事業を提案 ・特色ある部活動（スポーツ、郷土芸能など）を充実 ・学校と地域住民等が協働して学校の運営に取り組むコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入 	
エンパワメント	個に応じた学びを通して、自分自身の強みを発見し、将来の生き方を主体的に決定できる人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制による柔軟な教育課程により、生徒の「余白の時間」を創出し、地域等と連携した学校外における多様な体験活動(地域行事への参加、就業体験など)を実施 ・学校設定科目の工夫により「基礎学力の定着」や「発展的な学び」など多様な学習ニーズに対応 ・外国人生徒を対象とした「通級による指導」による日本語学習を実施 	

II. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

2) 職業系専門学科

- 職業系専門学科は、次の方向性で検討する。
- また、今後の各学科の定員設定については、学校の再構築の状況を踏まえながら、現在の定員数と定員割合、本県の産業・就業構造や生徒の志願状況などを勘案しながら決定していくこととし、右記のいずれかの方法で新時代HSに開設する。

- ① 職業系専門学科からなる学校を設置
- ② 普通系学科と併設する職業系専門学科を開設
- ③ 普通系学科・総合学科のコースや選択科目を開設

現在の学科	学科の方向性	開設方法		
		①	②	③
農業科	<p>○ 安定的な食糧生産や新たな時代の農業に対応できる人材を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AIやIoTの利活用、スマート農業の導入、環境への配慮など、新たな時代の農業に向けた実習 ・ 地域の企業等と連携した農業経営のグローバル化や法人化、6次産業化等に関する学習 ・ 生産技術の習得に加え、農業をビジネスとして捉え、企業が行う経営プロセスを体験できるカリキュラムの設定 	●	●	●
水産科	<p>○ 水産を取り巻く状況の変化に対応できる人材を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水産物の世界的な需要の変化や資源管理、持続可能な海洋利用など、環境保全型の水産業に関する課題についての探究活動 ・ 地域の企業等と連携した6次産業化や関連産業等に関する実習 		●	●
工業科	<p>○ 地域産業界と連携した実践的な就業体験も取り入れた「ものづくり県」を支える人材を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校では基本的な知識や技能を学ぶとともに、授業の一環として企業で実際に仕事をしながら技能を身につけるデュアルシステムの導入 ・ 新たなニーズ(デジタルものづくり、工業デザイン、アニメーション、防災・社会基盤など)に対応した学習 ・ 高等教育機関等への進学に対応できるよう、工業の専門科目以外の共通教科を多く履修する教育課程の編成 	●	●	●
商業科	<p>○ 課題設定・分析・解決力を身に付け、これからのビジネスを支え、創造できる人材を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 簿記や情報処理等の技能に加え、グローバルな視点やデジタル活用スキルの習得 ・ 商業の各分野について知識を相互に関連付けてより深く理解し、体系的・系統的に学べるカリキュラムの設定 ・ (模擬) 株式会社等の運営 	●	●	●
家庭科	<p>○ 食物、被服、保育、福祉などの専門的な知識・技術を身に付け、主体的に社会貢献できる人材を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食物、被服、保育、福祉に関する実習や調査、演習などの実践的・体験的な学習 ・ 持続可能な消費生活・環境に関するカリキュラムの充実 ・ 各分野のプロ講師による特別授業 		●	●
看護科	<p>○ 人々の健康増進を図り、地域や社会の保健・医療・福祉を支える人材を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最新の医療教材を用いた実習の充実による看護実践能力の育成 ・ 多様な実習先における経験を通じたコミュニケーション能力や豊かな人間性の育成 		●	
福祉科	<p>○ 豊かな人間性と高い専門性を備えた地域の福祉を支える人材を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉ニーズの高度化と多様化に対応できるカリキュラムの設定 ・ 福祉用具や介護ロボット等を含む福祉機器に関する学習 ・ 多職種協働やチームケアを一層意識した課題解決型学習の充実 		●	

II. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

- 職業系専門学科単独校の将来像については、次のことを基本とし、具体的な学校づくりの中で、今後の社会の変化やニーズを踏まえながら、それぞれの高校や学科に何が求められるかを考慮し、検討を進める。

現在の学校	今後の教育内容	再構築の方向性
農業科単独校	これまで行われてきた特色ある教育を継承しつつ、スマート農業技術や環境への配慮など、時代の要請に応えることができる教育内容とする。	近年の志願者数の減少を踏まえ、公共交通機関の利便性が高く通学しやすい他の県立高校等への移転も視野に検討する。
工業科単独校	①地域の企業等と連携したデュアルシステムの導入や、 ②新たなニーズ（デジタルものづくり、工業デザイン、アニメーション、防災・社会基盤など）への対応、 ③高等教育機関への進学も視野に入れた教育課程とする。	工業科単独校とその他の学校の工業科を対象に再構築する。「工業科教育の魅力化・特色化」、「地域の担い手育成・確保」等の観点から、「複数キャンパス制*」の導入について検討する。
商業科単独校	社会の変化やニーズに柔軟に対応できるよう、グローバルな視点やデジタル活用スキルの育成など新たな学習内容を取り入れる。	これまでの商業科単独校で行われてきた教育を踏まえつつ、「学校の魅力化・特色化」、「学校規模の維持と部活動の活性化」等の観点から、その他の学科を併設した学校として再構築することを検討する。

* 実習施設の有効な活用を図る場合などに、一つの高校を複数のキャンパスで運営するもの

3) 総合学科

- 高等学校設置基準では「普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科」として位置付けられている。
- これを踏まえ、今後、「1) 普通系学科」及び「2) 職業系専門学科」の具体的な配置を考えていく中で、柔軟な教育課程の編成や円滑な学校運営などの観点から、より効果が期待できると考えられる場合に、「総合学科」として開設することとし、キャリア教育等を通して、自身の進路希望を明確にし、進路にあった学びを提供する。

II. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

4 学校規模別の設置方針

- 「新時代HS」は、大規模校・中規模校・小規模校で構成する。
- それぞれの規模において、メリットを活かした学校づくりを進めるとともに、教育効果を高める学校運営を行う。

	大規模校	中規模校	小規模校
ねらい	多くの科目や部活動から選択が可能で、多様な考え方に接することにより、他者と協働して社会参画できる力を高める。	県内各エリアで、バリエーションに富んだ学校を県内にバランスよく配置し、生徒に多様な選択肢を提供する。	小規模校ならではの特色ある教育活動の展開や長期的なニーズ、通学時間の観点から、地域バランスにも配慮して設置する。
教育内容	スタンダード、 未来創造【i】スポーツ、 未来創造【ii】芸術で構成する。 職業系専門科目の一部も含め多様な選択科目※を開設する。	スタンダードを基本とし、職業系専門学科を含むそれ以外の教育内容とバリエーションに富んだ組み合わせとする。	スタンダードと「地域共創」などを組み合わせる。
学校規模等	1学年「480人規模」の学校を県内に1校設置する。	1学年「160人～280人規模」の学校をバランスよく配置する。	1学年「120人以下」の学校を設置する。
設置場所	県全域からの通学を考慮し、公共交通機関の利便性の高い富山市内の県有地（県立高校敷地など）を活用して整備する。	現在の高校施設を活用することを基本とする。	現在の高校施設を活用することを基本とする。
整備方法	「新築」又は、「既存施設の活用」を検討する。	必要に応じて現有の施設設備の改修等を行う。 既存施設の有効活用等の観点から、中規模校の機能分担（複数キャンパス制）についても検討を行う。	必要に応じて現有の施設設備の改修等を行う。

	共通教科	職業系専門科目等
※大規模校における選択科目の例	国語：論理国語、文学国語、国語表現、古典探究 地理歴史：地理探究、日本史探究、世界史探究 公民：倫理、政治・経済 理科：物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎 芸術：音楽Ⅰ、美術Ⅰ、工芸Ⅰ、書道Ⅰ など	農業：農業と環境、草花、野菜 家庭：生活産業基礎、フードデザイン、生活と福祉 音楽：音楽概論、ソルフェージュ、声楽、器楽、作曲 英語：総合英語Ⅰ～Ⅲ、 デバート・ディスカッションⅠ～Ⅱ 商業：簿記、ビジネス基礎、ソフトウェア活用、プログラミング 体育：スポーツ概論、スポーツⅠ～Ⅵ、 スポーツ総合演習 美術：美術概論、素描、構成、絵画、 ビジュアルデザイン など

II. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

5 令和20年度における県立高校の学校規模のイメージ

- 令和20年度の1校あたりの平均募集定員はそれ以降の生徒数の減少を勘案して、現在（約180人）よりも多い210人程度に設定し、配置数の目安は全県で20校程度とする。
- 次のイメージにより大規模1校、中規模15校、小規模4校を東西にバランスよく配置する。

学校規模	全県		学校数の目安	募集定員の目安	
大規模校	480人（12学級）規模		1校（5%）	480人（11.4%）程度	
中規模校	<p>地域特有の教育を実践し、地元自治体と連携しながら地域の活性化に取り組む場合、実習施設の有効な活用を図る場合などに、中規模校の機能分担(複数キャンパス制)を検討する。</p>	<p>県西部</p> <p>240人（6学級）～280人（7学級）規模</p> <p>240人（6学級）～280人（7学級）規模</p> <p>240人（6学級）～280人（7学級）規模</p> <p>240人（6学級）～280人（7学級）規模</p> <p>160人（4学級）～200人（5学級）規模</p> <p>160人（4学級）～200人（5学級）規模</p> <p>6校</p>	<p>県東部</p> <p>240人（6学級）～280人（7学級）規模</p> <p>240人（6学級）～280人（7学級）規模</p> <p>240人（6学級）～280人（7学級）規模</p> <p>160人（4学級）～200人（5学級）規模</p> <p>160人（4学級）～200人（5学級）規模</p> <p>160人（4学級）～200人（5学級）規模</p> <p>160人（4学級）～200人（5学級）規模</p> <p>160人（4学級）～200人（5学級）規模</p> <p>160人（4学級）～200人（5学級）規模</p> <p>9校</p>	15校（75%）	3,240人（77.1%）程度
	小規模校	<p>～120人（～3学級）規模</p> <p>～120人（～3学級）規模</p> <p>2校</p>	<p>～120人（～3学級）規模</p> <p>～120人（～3学級）規模</p> <p>2校</p>	4校（20%）	480人（11.4%）程度
			計	20校	4,200人程度

※学級数は、現在の標準である1学級40人として試算

II. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

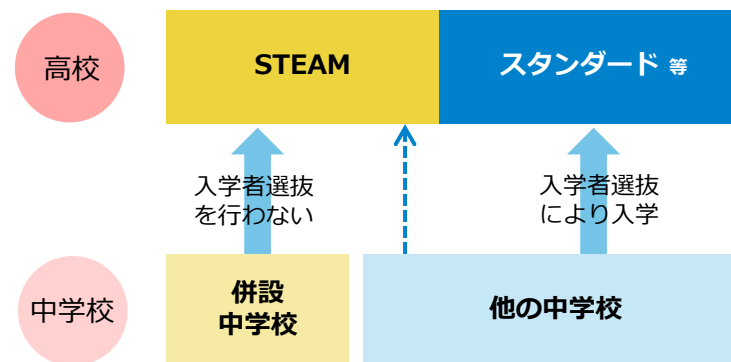
6 様々なタイプの学校・学科等

中高一貫教育校

- 「STEAM」について継続的かつ計画的に学ぶ中高一貫校1校の設置を目指す。
- 高校の教育内容として「スタンダード」と「STEAM」などを組み合わせた「併設型」とする。
- 設置場所は、県西部を基本として検討し、市町村教育委員会等の関係機関とも協議のうえ決定する。



併設型中高一貫教育校のイメージ



国際バカロレア認定校

- まずは、「グローバル」に重点を置く学校を設置し、その取組みを検証しながら、認定校のニーズや効果を整理し、導入の必要性等の議論を重ねる。
- 設置する場合は、教育内容として「スタンダード」と「グローバル」などを組み合わせ、県東部での設置を基本とし、中高一貫教育校の検討も行う。



II. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

外国人生徒に係る特別入学枠

- 教育内容として「エンパワーメント」を取り入れ、入学後の日本語指導も含めた支援体制を整備する。
- 幅広い進路選択が可能となるよう、教育内容として「スタンダード」や「未来創造」などと組み合わせる。
- 県東部と県西部に各1校設置することを基本として検討する。



全国募集

- 南砺平高校での取組みの効果や課題を検証するとともに、全国募集の導入に意欲のある地元自治体と県外生徒の受入環境の整備について協議したうえで、「未来創造」、「地域共創」などを中心とした学びでの導入について検討する。



II. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

7 新時代HSの類型

- 新時代HSは、「3. 教育内容」と「4. 学校規模別の設置方針」を組み合わせ、次の7つの類型を基本とする。
- 各類型の学校像は、代表的な特徴などを示したものであり、今後の具体的な学校づくりの中で各校の魅力化・特色化を図る。

類型名	目指すべき学校像	主たる教育内容		規模	様々なタイプの学校・学科等との親和性			
		スタンダード	その他		中高一貫	国際バカロレア	外国人特別枠	全国募集
① プログレス ハイスクール	<p>○確かな学力と多様な進路選択</p> <p>普通教育を中心とした学習を通して、幅広い進路選択を可能とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力に応じた学びを実践できる教育課程を編成 ・高等教育機関への進学に必要な学力や課題発見力・解決力を身に付けることができる教育課程を編成 	●	—	中規模				
② STEAM ハイスクール	<p>○社会課題解決につなげる探究と大学連携</p> <p>学術的な見識を高め、これからの社会を創造できる力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動の授業時数を拡充し、研究手法の習得や教科横断的な学びの時間を確保 ・県内大学等の教授や学生の指導による大学での学びを先取り 	●	STEAM	中規模	●			
③ グローバル ハイスクール	<p>○グローバルな視野・創造力とふるさとへの理解</p> <p>グローバルな視点と創造力を持って、国内外で活躍できる力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語力の向上、国際感覚の醸成を図る教育課程を編成 ・海外進学も含めた進路選択に対応できる教育課程を編成 ・ふるさとの理解を深め、郷土への愛着や誇りを醸成 	●	グローバル	中規模	●	●		

II. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

類型名	目指すべき学校像	主たる教育内容		規模	様々なタイプの学校・学科等との親和性			
		スタンダード	その他		中高一貫	国際バカロレア	外国人特別枠	全国募集
④ 総合選択 ハイスクール	<p>○生徒の主体性の確立と他者との協働</p> <p>主体的に選択する力、他者と協働して社会参画できる力をより高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な選択肢の中から、入学後の学習を通して興味関心を持った科目を選択できる教育課程を編成 スポーツや芸術などの専門性を高めたい生徒に対応した専門科目を開設 	●	<p>未来創造 【i：スポーツ】</p> <p>未来創造 【ii：芸術】</p> <p>〔職業系専門科目の一部を選択科目として開設〕</p>	大規模				
⑤ 未来探求 ハイスクール	<p>○専門的な学びの追求と多様な価値観との出会い</p> <p>興味関心が異なる仲間と共に学ぶことで、自分も他者も尊重する姿勢を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定分野の専門科目を重点的に学ぶコースや学科を開設 異なるコースや学科による連携活動や生徒の交流を促進 柔軟な教育課程の編成による生徒の主体的な活動を充実（学校行事、ボランティア活動、部活動など） 外国人生徒に係る特別入学枠の設定や基礎学力の定着を図る学び直しを実施 	●	<p>次のいずれかの組合せ</p> <p>未来創造 【i：スポーツ】 【ii：芸術】 【iii：情報】 【iv：商業】 【v：家庭】</p> <p>エンパワーメント 職業系専門学科</p>	中規模・小規模			●	●
⑥ 地域共創 ハイスクール	<p>○地域との協働とフィールドワーク</p> <p>地域の課題解決や魅力発信に貢献できる力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元の企業や自治体と連携した探究活動を推進 地域の特色ある産業、スポーツ、郷土芸能に関連する探究活動や部活動を充実 コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入 	●	地域共創	小規模				●
⑦ 実践 ハイスクール	<p>○高度化する技術への対応と実社会での活躍</p> <p>本県産業を支えていくために必要な知識・技術を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の企業等と連携したデュアルシステムの導入 新たなニーズや高等教育機関等への進学も視野に入れた教育課程の編成 	—	工業科などで構成する職業系専門学科	中規模				

【ご紹介】「新時代とやまハイスクール」の学校像

中規模

グローバルハイスクール

世界と共に生きる国際人
世界とつながり、国内外での活躍を応援！

可能性を広げる英語力の習得
発表や討論を通じ、表現力・発信力を磨きます



高いコミュニケーション力と優れた国際感覚
海外の学校と連携したオンライン交流や海外研修により、国際理解を進めます



日本を知り、世界に発信
日本の自然・歴史・文化の理解を深め、郷土への誇りや愛着を醸成します



世界に広がる活躍の場
英語による数学や理科の授業など、海外大学への進学も視野に入れた学びを提供します



みらいを拓く7つのカタチ

「新時代とやまハイスクール」の学校像

P11～12の7つの類型についてイラストを交え、直感的に分かりやすく説明しています
ぜひご覧ください

この3つ以外にもあるよ
詳しくはこちらから





中規模
小規模

未来探求ハイスクール

得意を生かした未来設計
一人ひとりの夢を応援！

スポーツや健康の深い学び
種目毎の専門性の高い指導により、技術力と人間力を磨きます



幅広い創作活動
各芸術分野の専門性の高い指導により、表現力と豊かな感性を磨きます



デジタルで「新たな価値」を創造
AIやICTを活用し、社会課題の解決につながる学びを提供します



未来のビジネス社会を切り拓く実践的な学び
地域をフィールドとした実践的な学びを通じ、アントレプレナーシップを醸成します



暮らしと心を豊かにする学び
暮らしを支える学びや実習を通じ、人を幸せにする姿勢や心構えを醸成します



一人ひとりに向き合う学び
できる・わかるを積み重ね、自信につなげます



大規模

総合選択ハイスクール

選べる学び、広がる世界
一人ひとりの個性を伸ばし、主体的な選択を応援！

主体性を育む「MY時間割」
興味・関心に応える多彩な選択科目を提供します



多くの仲間との出会い
異なる興味・関心をもつ仲間とともに学ぶことで多様な価値観に出会えます



充実した部活動と学校行事
様々な部活動や生徒主体の学校行事を通して、自分を高めることができます



多様な学びに応える学習空間にアップデート
様々な機能を備えた学び舎で成長できます



Ⅲ. 「目指す姿」から考える「各期の姿」

1 各期の方向性

- 令和20年度の「目指す姿」から、その5年前頃や10年前頃の「配置の姿」をバックカastingで考えたうえで、3期に分けて順次新時代HSを設置することとし、それぞれの期において必要となる県立高校の再構築を行う。
- 生徒の通学手段を考慮し、一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができるよう、エリアごとの募集定員の目安を踏まえ、様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置する。
- 新時代HSを計画的に設置できるよう、現在の全ての県立高校(全日制)を「移行準備校」に位置づけ、学科改編等の準備を進める。
- 第1期の検討と並行し、第2期以降に設置する学校についても必要な検討を行う。また、令和20年度の「目指す姿」については、中学校卒業予定者数の今後の推移や通学等の要素を考慮し、エリアごとの学校の配置数などの全体像を示せるよう検討を行う。

第1期（令和11年度頃まで）

- ・速やかに対応すべき教育課題の解決を図る中規模校を次のとおり設置するとともに、大規模校の設置準備を進める。
- ① グローバル化が進展する中で、外国の異なる文化や多様な価値観を尊重し、国際的な課題解決力を育むため、グローバル教育の充実を図る学校
- ② 科学技術の進展、各種分野におけるAIやデータサイエンスの活用機会の増大に対応できるよう情報教育の充実を図る学校
- ③ 県外高校へ進学する生徒の増加、県立高校の志願倍率の低下などの状況を踏まえ、県立高校のさらなる魅力化を図るため、普通系学科の科目に加え、スポーツや職業系専門科目等から「学習内容を選択できる仕組み」がある学校
- ④ 不登校生徒や外国人生徒の増加などを踏まえ、誰一人取り残されない教育の実現を図る学校

第2期（令和15年度頃まで）

- ・中・小規模校の充実を図るとともに、大規模校の整備を進める。

第3期（令和20年度頃まで）

- ・「新時代とやまハイスクール構想」に基づいた全ての新時代HSの設置を完成させる。

Ⅲ. 「目指す姿」から考える「各期の姿」

2 各期の姿

NO	類型名	学校規模	設置時期			設置エリア		
			第1期	第2期	第3期	県西部	県東部	
1	プログレスハイスクール	中規模校		○		1校	2～4校	
2	STEAMハイスクール	中規模校		(中高は2期) ○		1校(中高)	1校	
3	グローバルハイスクール	中規模校	①グローバル	○		0～1校	1～2校	
4	総合選択ハイスクール	大規模校	設置準備	施設整備	○	1校		
5	未来探求ハイスクール	中規模校 小規模校	②情報 ③スポーツ等 ④エンパワーメント	○		2～3校	2～3校	
6	地域共創ハイスクール	小規模校		○		2校	2校	
7	実践ハイスクール	中規模校			○	1校	1校	
						計	8校程度	11校程度
								20校程度

Ⅲ. 「目指す姿」から考える「各期の姿」



Ⅲ. 「目指す姿」から考える「各期の姿」

(参考) 令和8年度の県立高校(全日制)の設置状況

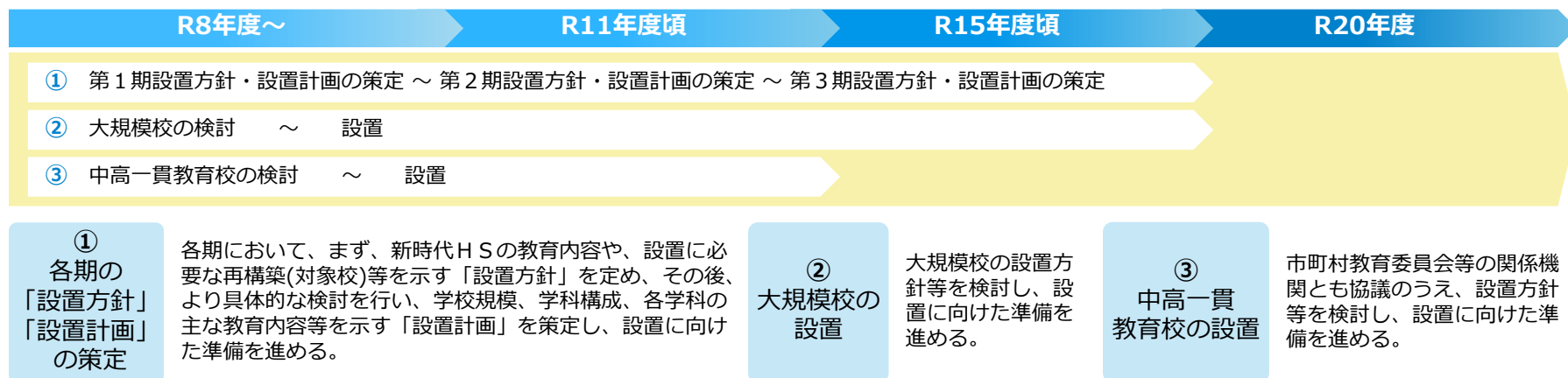
全県: 34校・153学級・5,926人【普63.7%、職36.3%】									
県西部: 15校・63学級・2,436人(41.1%)【普62.7%、職37.3%】					県東部: 19校・90学級・3,490人(58.9%)【普64.5%、職35.5%】				
学校名	学科名	募集定員		備考	学校名	学科名	募集定員		備考
		学級	定員				学級	定員	
砺波	普通	4	160		小杉	総合	4	160	
	機械	2	60		大門	普通	3	120	情報コース
砺波工業	電気	1	30		新湊	普通	3	120	
	電子	1	30			商業	1	40	
南砺福野	普通	4	160		高岡	普通	4	160	
	国際	1	30			理数科学	2	80	探究科学科
	農業環境	1	30		人文社会科学				
南砺平	普通	1	36	*全国募集6	高岡工芸	機械	1	40	
	福祉	1	30			電子機械	1	40	
石動	普通	3	120			電気	1	40	
	商業	1	40			建築	1	40	
						土木環境	1	40	土木工学コース 環境化学コース
						工芸	1	30	
						デザイン・絵画	1	40	
					高岡商業	流通ビジネス	2	80	
						国際ビジネス	1	40	
						会計ビジネス	1	40	
						情報ビジネス	1	40	
					伏木	国際交流	2	80	中国語コース 韓国語コース ロシア語コース
					高岡南	普通	4	160	人文科学コース
					福岡	普通	3	120	英語コース
					氷見	普通	2	80	
						農業科学	1	40	
						海洋科学	1	40	
						ビジネス	1	40	
						生活福祉	1	40	
					富山工業	機械工学	2	80	
						電子機械工学	1	40	
						金属工学	1	40	
						電気工学	2	80	
						建築工学	1	40	
						土木工学	1	40	
					富山商業	流通ビジネス	2	80	
						ビジネスマネジメント	1	40	
						会計ビジネス	1	40	
						情報ビジネス	2	80	
					富山いづみ	総合	4	160	
						看護	1	40	
					富山東	普通	6	240	自然科学コース約40
					富山南	普通	5	200	国際コース
					呉羽	普通	6	230	音楽コース約30

※普職割合は、総合学科を除く比率

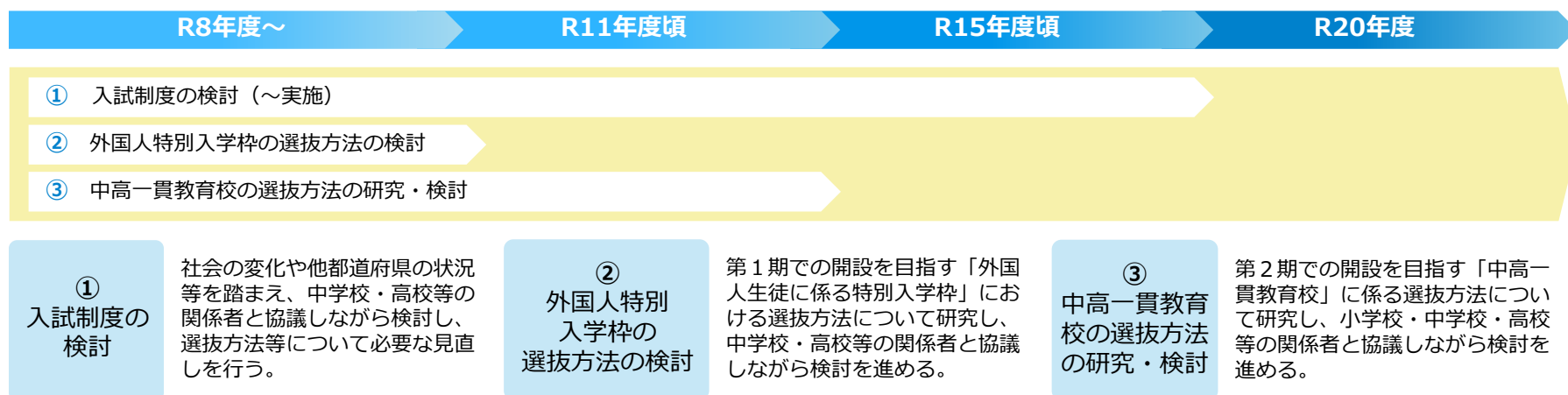
IV. 今後の進め方

1 項目ごとの流れ

1) 新時代HSの設置

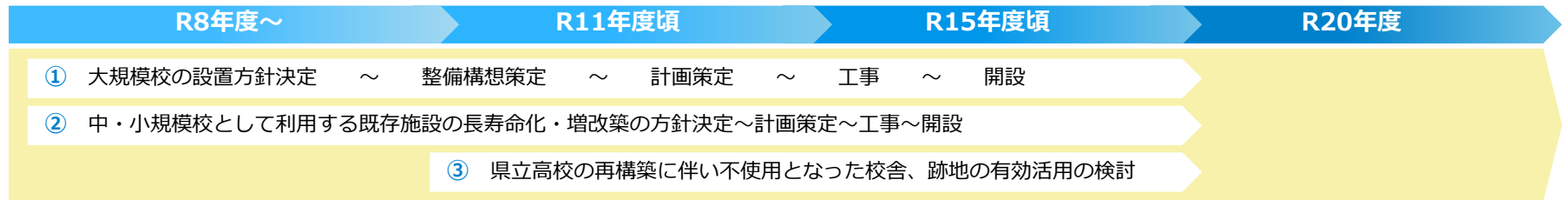


2) 入試制度の見直し



IV. 今後の進め方

3) 施設・設備等の整備



① 大規模校の整備構想等

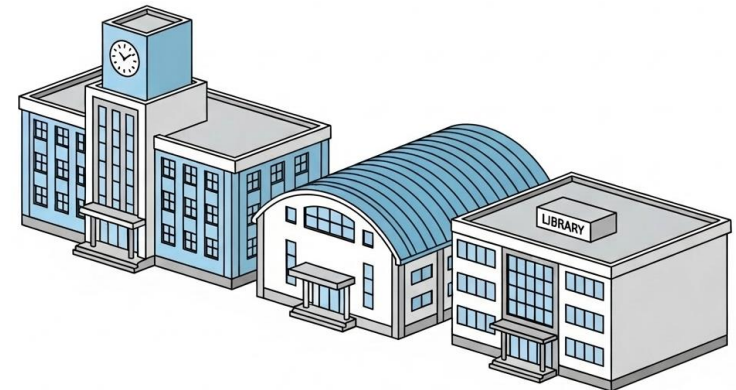
令和8年度に検討予定の「大規模校の設置方針(学科構成、設置場所など)」を踏まえ、大規模校の設置に伴い必要となる施設や設備の整備構想を決定のうえ、計画策定、工事を着実に進め、第3期に大規模校を開設する。

② 中規模校・小規模校の整備構想

中規模校・小規模校については、第1期校から第3期校のそれぞれの設置方針等に基づき、校舎に関する検討を行うこととし、既存施設の長寿命化や増改築など必要となる施設や設備等の整備構想を決定のうえ、計画策定、工事を着実に進めて開設する。

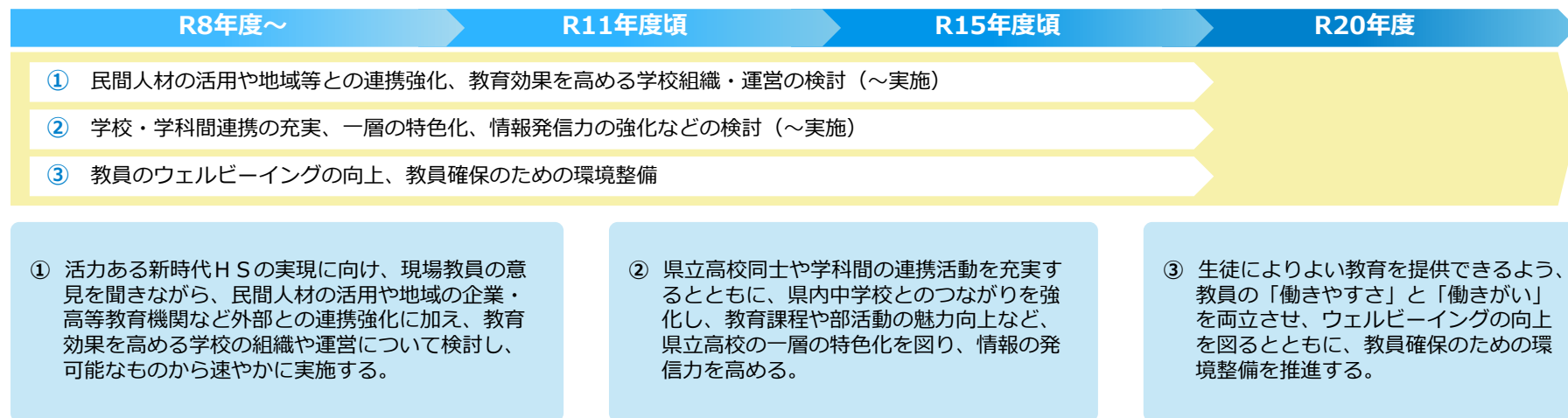
③ 不利用校舎・跡地の有効活用

県立高校の再構築により不利用となる校舎や跡地の有効活用についても検討する。

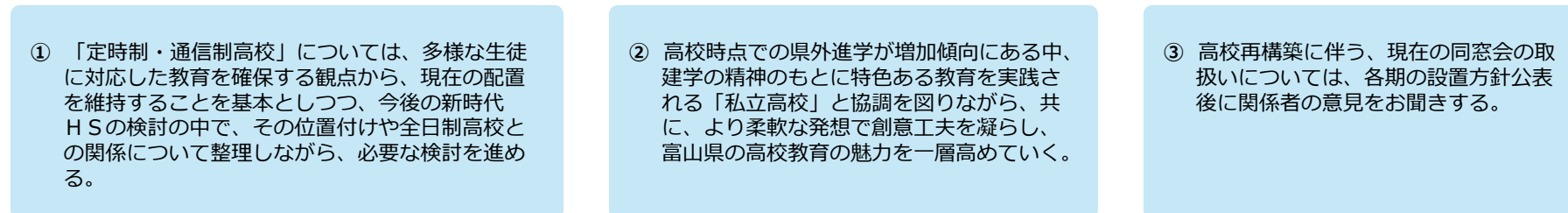


IV. 今後の進め方

4) 活力ある学校・組織づくり



5) その他

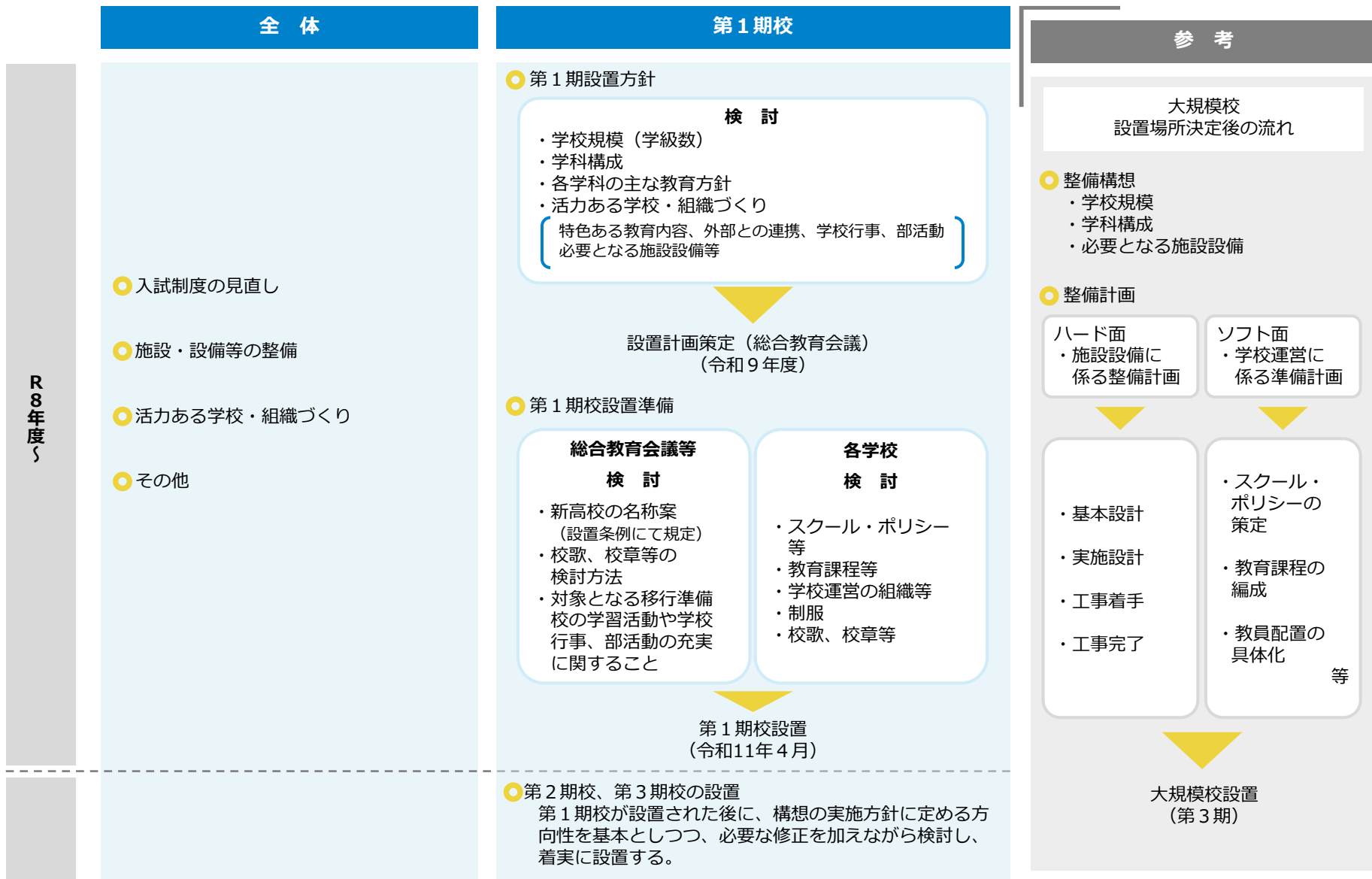


IV. 今後の進め方

2 第1期校等の流れ

	全 体	第1期校	第2期以降に設置する学校
R6年度	<ul style="list-style-type: none"> 「新時代とやまハイスクール構想」基本方針の策定 		
R7年度	<ul style="list-style-type: none"> 「新時代とやまハイスクール構想」実施方針の策定 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿 「目指す姿」から考える「各期の姿」 今後の進め方 		
R8年度		<ul style="list-style-type: none"> 第1期設置方針 <div style="border: 1px solid #add8e6; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">検 討</p> <p>第1期校（グローバルハイスクール、未来探求ハイスクール）として設置する高校における教育内容(外国人生徒に係る特別入学枠含む)</p> <div style="border-left: 1px solid #add8e6; border-right: 1px solid #add8e6; padding: 0 10px;"> <p>学校ごとに検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ①どのような生徒の育成を目指すか ②どのような教育内容が必要か </div> <p>第1期校の設置に必要な再構築</p> <div style="border-left: 1px solid #add8e6; border-right: 1px solid #add8e6; padding: 0 10px;"> <p>現在の各高校の特色や教育内容に着目し、第1期校を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ①どのように再構築するか ②どこに設置するか </div> </div> <p style="text-align: center;">設置方針策定（総合教育会議） （令和8年度前半）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大規模校の設置場所等 <div style="border: 1px solid #add8e6; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">検 討</p> <p>設置場所、整備手法</p> <div style="border-left: 1px solid #add8e6; border-right: 1px solid #add8e6; padding: 0 10px;"> <p>現在の県立高校の敷地や施設の状況も踏まえながら検討</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> 令和20年度の「目指す姿」 <div style="border: 1px solid #add8e6; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">検 討</p> <p>エリアごとの学校配置数など</p> </div> <p style="text-align: center;">大規模校の設置場所決定 令和20年度の全体像</p>

IV. 今後の進め方



「新時代とやまハイスクール構想」実施方針に関する検討経緯

令和7年	3月	総合教育会議 ・「新時代とやまハイスクール構想」基本方針策定
	5月9日	第1回 新時代とやまハイスクール構想検討会議 ・「新時代とやまハイスクール構想」基本方針について ・今後の進め方について ・大規模校の設置方針について（一部非公開）
	6月3日	第2回 新時代とやまハイスクール構想検討会議 ・大規模校（埼玉県立伊奈学園総合高等学校）における教育の現状について ・大規模校の設置方針などについて（一部非公開）
	7月3日	第3回 新時代とやまハイスクール構想検討会議 ・大規模校の設置方針、令和20年度までに実現を目指す「県立高校全体の姿」について（一部非公開）
	7月28日	第4回 新時代とやまハイスクール構想検討会議 ・「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(素案)について（一部非公開）
	8月19日	総合教育会議 ・「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(素案)とりまとめ
	8月21日～ 9月12日	パブリックコメント
	8月30日 31日	意見交換会
	10月14日	第5回 新時代とやまハイスクール構想検討会議 ・「新時代とやまハイスクール構想」実施方針及び今後の進め方について
	10月28日	総合教育会議 ・「新時代とやまハイスクール構想」の進め方について
	10月～11月	職業系専門学科の将来像に関する意見聴取
	11月21日	第6回 新時代とやまハイスクール構想検討会議 ・職業系専門学科のあり方について（一部非公開）
令和8年	1月20日	第7回 新時代とやまハイスクール構想検討会議 ・「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(案)について
	1月28日	総合教育会議 ・「新時代とやまハイスクール構想」実施方針策定

職業系専門学科に関する意見聴取メンバー

農 業 科	
河上めぐみ	(有)土遊野 代表取締役
下村 豪徳	(株)笑農和 代表取締役
友田 拓造	(株)Yokubari farm 代表取締役
豊川 和人	富山県農業協同組合中央会農村対策部 部長
福島 学	全国農業協同組合連合会富山県本部畜産部畜産課専任課長
橋本 喜洋	富山県農業法人会 会長
県関係課（農林水産部農業経営課、農林水産部農業技術課） 県教育長・関係学校長（中央農業高等学校）	
工 業 科	
伊東潤一郎	新時代とやまハイスクール構想検討会議 委員 (アイティオ(株) 代表取締役社長)
加藤 昭悦	(一社)富山県建設業協会 専務理事
高田 吉弘	(一社)富山県薬業連合会 専務理事
寺島 雅峰	富山経済同友会教育を考える委員会 委員長 (株)寺島コンサルタント 代表取締役
水口 勝史	(一社)富山県機電工業会 会長 (立山科学(株)代表取締役社長)
県関係課（商工労働部商工企画課、土木部建設技術企画課） 県教育長・関係学校長（魚津工業高等学校、富山工業高等学校、 高岡工芸高等学校、砺波工業高等学校）	
商 業 科	
杉木 貴文	新時代とやまハイスクール構想検討会議 委員 (株)Engames 代表取締役社長
土屋 誠	前 富山経済同友会教育問題委員会 委員長 (日本海ガス(株) 取締役会長)
栃谷 義隆	富山県商業教育振興会 会長 (株)ヤングドライ 代表取締役会長
能作 千春	新時代とやまハイスクール構想検討会議 委員 (株)能作 代表取締役社長
山本 公生	商工会連合会 専務理事
県関係課（商工労働部経営支援課、教育委員会保健体育課） 県教育長・関係学校長（富山商業高等学校、高岡商業高等学校）	

「新時代とやまハイスクール構想」実施方針に関する検討経緯

新時代とやまハイスクール構想検討会議設置要綱

(設置)

第1条 「新時代とやまハイスクール構想」基本方針（以下「基本方針」という。）に基づき、今後の県立高校づくりに関する検討を行うため、新時代とやまハイスクール構想検討会議（以下「検討会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討会議の基本方針に基づき、次の事項について検討する。
 (1) 各期に開設する新時代とやまハイスクールの方向性及び大規模校の設置方針に関すること
 (2) 第1期校の開設方針及びその開設に必要な再編統合に関すること
 (3) その他今後の県立高校づくりに必要な事項に関すること

(組織及び委員)

第3条 検討会議は、次に掲げる者を委員とする。
 (1) 富山県総合教育会議を構成する者
 (2) 学識経験者、経済界関係者、学校関係者及び保護者のうちから、知事が委嘱した者
 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
 3 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、その前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第4条 検討会議に、会長1名、副会長1名を置く。
 2 会長は、知事をもって充てる。
 3 副会長は、会長が指名し、会長を補佐する。
 4 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、副会長がその職務を代理する。

(会議)

第5条 検討会議は、知事が招集する。
 2 検討会議の進行は、あらかじめ会長が指名した者が行う。
 3 検討会議は、公開する。ただし、次の号のいずれかに該当する場合は、会長及び委員の協議により、会議の全部又は一部を公開しないことができる。
 (1) 富山県情報公開条例(平成13年富山県条例第38号)第7条第5号に規定する非開示情報が含まれる事項に関して協議する場合
 (2) 公開することにより、会議の公正が害されるおそれがあると認める場合
 (3) その他公益上必要があると認められる場合
 4 会長が、必要があると認めるときには、検討会議において関係者又は学識経験を有する者から意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 検討会議の庶務は、経営管理部学術振興課及び教育委員会教育みらい室県立高校改革推進課において処理する。

(細則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、検討会議の運営について必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和7年5月9日から施行する。

新時代とやまハイスクール構想検討会議委員名簿

(令和7年5月9日現在)

(委員17名、敬称略)

	氏 名	委 員 の 所 属 等	備 考
会長	新田 八朗	富山県知事	設置要綱 第3条第1項 による委員
	廣島 伸一	富山県教育長	
	坪池 宏	富山県教育委員（教育長職務代理者）	
	大西 ゆかり	富山県教育委員	
	黒田 卓	富山県教育委員	
	牧田 和樹	富山県教育委員	
	松岡 理	富山県教育委員	
	伊東 潤一郎	アイティオ(株) 代表取締役社長	設置要綱 第3条第2項 による委員
	佐伯 真未	富山県PTA連合会 副会長	
	品川 祐一郎	トヨタモビリティ富山(株) 代表取締役社長	
	白江 日呂雄	元 富山県中学校長会 会長	
	杉木 貴文	(株)Engames 代表取締役社長	
	南部 初世	名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教授	
	能作 千春	(株)能作 代表取締役社長	
副会長	林 誠一	富山大学 学長特命補佐・客員教授	
	本江 孝一	元 富山県高等学校長協会 会長	
	松山 朋朗	富山県高等学校PTA連合会 顧問	

Q&A

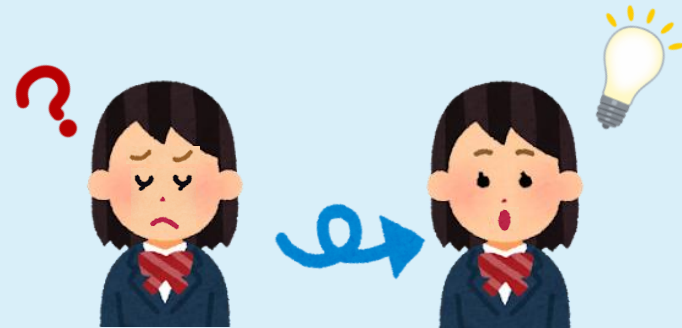
1 県立高校の再構築について

Q どうして県立高校の再構築が必要なの？

A 中学校卒業予定者は年々減少し、令和20年度には、令和7年度より3割以上も減少する見込みで、現在の高校を今後も維持し続けた場合、ほとんどの高校が小規模校になってしまいます。このため、令和3年度以降、幅広いご意見をお聞きしながら将来の県立高校のあり方について議論を重ねた結果、令和20年度を見据え、現在の全ての県立高校(全日制)を再構築して新たな学校を段階的に設置することにしました。

Q 「新時代とやまハイスクール構想」は何を目指しているの？

A 「新時代とやまハイスクール構想」では、「新時代に適応し、未来を拓く人材の育成」を基本目標としました。予測困難な時代においても、生徒が社会の変化やニーズを的確に読み取り、様々な人々と協働して社会参画できるよう、個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせながら、生徒一人ひとりの生きる力とレジリエンスを育み、「ウェルビーイング」の向上を図っていくことにしています。



Q 新たな学校は、どんな考え方で設置するの？

A まず、これまでの各高校における教育内容をもとに、将来を見据えた新たな取組み(教育内容、教育環境、学校運営など)を加え「今後必要と考えられる教育内容」を整理します。その教育内容を様々な規模で組み合わせ、7つの学校類型に分類した上で、今後の中学校卒業予定者数や通学の利便性を考慮し、県内にバランスよく設置することにしています。

Q 令和20年度に県立高校(全日制)が20校程度まで減るのはなぜ？

A 県立高校(全日制)の学校規模について、開設科目数や部活動などの学習環境等を考慮し、これまで1学年平均200人程度となるよう高校再編を行ってきていましたが、令和2年度の県立高校(全日制)1校あたりの1学年平均募集定員は約200人であったものが、現在(令和7年度)は、約180人まで減少しています。令和20年度以降の中学校卒業予定者の減少も見据え、令和20年度の学校数は20校程度(1学年平均募集定員約210人)を目安にしています。

Q&A

2 新時代とやまハイスクールについて

Q

どうして1学年480人程度の大規模校が必要なの？

A 中学生や保護者からの希望の多い、多様な選択肢の提供を可能とするものとして大規模校を設置することとしました。①多くの科目から選択履修が可能で幅広い学びができる、②教科毎に充実した教員配置ができ、教員の資質向上と生徒の深い学びにつながり、③様々な部活動の設置や多彩な学校行事が実施できるようにするために必要な規模として1学年480人程度を目安とする案としています。

Q

中高一貫校はどんな学校になるの？

A 中高一貫教育校は、①高校入試の影響を受けない6年間の学習機会の中で様々な可能性に挑戦できる、②幅広い年齢集団の中で、より豊かな人間性や社会性を育むことができるため、第2期（令和15年度頃）に県西部に1校設置することとしています。より充実した探究活動などを通して、学術的な見識を高め、これからの社会を創造できる力を高める「STEAMハイスクール」として設置することを検討します。

Q&A

3 その他

Q

国の「高校教育改革に関するグランドデザイン」は何を目指しているの？

A 公立高校の教育改革を進めるため国が令和8年2月に策定しました。2040年には、少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化、労働力需給ギャップ、理系人材の不足など、社会状況がさらに大きく変化するため、①AIに代替されない能力や個性の伸長、②我が国の社会・経済の発展を支える人材育成、③一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保、の3つの視点が示されました。これは、本県の「新時代とやまハイスクール構想」と同じ方向性となっています。

Q

中規模校や小規模校はどんな学校になるの？

A 生徒の皆さんに多様な選択肢を提供するため、大・中・小規模の新時代とやまハイスクールを県内にバランスよく配置することとしています。中規模校は、グローバルな視点と創造力を持って、国内外で活躍できる力を高める「グローバルハイスクール」、本県産業を支えていくために必要な知識・技術を身に付ける「実践ハイスクール」などバラエティに富んだ学校を15校程度設置することとしています。また小規模校は、地域の課題解決や魅力発信に貢献できる力を高める「地域共創ハイスクール」などを4校程度設置することとしています。

※各新時代とやまハイスクールについては、P11～12ページをご覧ください。

Q

「エンパワーメント」教育って何？

A 「エンパワーメント」教育は基礎的・基本的な知識や技能の習得を通して、自分自身の生き方を主体的に決定できる力を育む教育です。柔軟な教育課程の編成や外部人材の活用などにより、「個に応じた学び」を充実します。



※ 本資料は富山県のホームページにも掲載しています。

「新時代とやまハイスクール構想」で検索または、右記二次元コードからアクセスし、ページ内に掲載されているファイルをご覧ください。



【お問合せ先】

富山県教育委員会 教育みらい室 県立高校改革推進課

電 話 076-444-3429 (直通)

Eメール akyoikumirai@pref.toyama.lg.jp